

## 平成 28 年度第 2 回岐阜県地方独立行政法人評価委員会(県立病院関係)

### － 議 事 要 旨 －

- 1 日 時 平成 28 年 8 月 1 日(月) 14:30～16:45
- 2 場 所 ハートフルスクエア-G 研修室 5 0
- 3 出席者
  - [委 員] 湊口委員長、石原委員、芝田委員、富田委員
  - [専門委員] 小林専門委員※、金山専門委員 (※途中退席 1 6 時)
  - [法 人] (地方独立行政法人岐阜県総合医療センター) 滝谷理事長、森嶋副理事長兼事務局長  
(地方独立行政法人岐阜県立多治見病院) 原田理事長、松葉副理事長兼副院長兼事務局長  
(地方独立行政法人岐阜県立下呂温泉病院) 山森理事長、鈴木副理事長兼院長、丹羽理事兼事務局長
  - [設立団体] (岐阜県) 尾藤健康福祉部長、森岡健康福祉部次長、松原医療整備課長、中畑災害医療対策監、浦崎課長補佐兼医療整備係長 ほか
- 4 議事等
  - [議題 3] 平成 2 7 年度業務実績に関する評価について
  - [報 告] 平成 2 8 年度年度計画について
- 5 配布資料 次第、名簿、配席図、資料①～④、参考(病院)、報告(総)(多)(下)、説明(病院)
- 6 議事要旨

## 議事要旨 県立病院関係

### [審議事項：議題3]

地方独立行政法人岐阜県総合医療センター・岐阜県立多治見病院・岐阜県立下呂温泉病院の平成27年度業務実績に関する評価について

※項目番号については、検証シートに記載のものを示す。

#### 1 ブロック 法人説明（各法人から実績を説明）

##### 【県総 滝谷理事長】

総括としては、概ね平成27年度事業計画を達成し、前年度を上回る数値を確保できたことから、各項目についてⅢないしⅣの自己評価をしている。

##### 項目番号01

「1 高度先進医療機器の計画的な更新・整備」：3台目のMRI装置、CT装置の導入により、小児・新生児までの検査をより高精度で行うことができ、特に、CTに関しては短時間で撮影できることから、放射線の被ばく量の軽減を図っている。

「2 医師、看護師、コメディカル等の医療従事者の確保」：看護師については、長時間勤務の改善、ローテーション確保を図り、7：1看護体制を維持している。

「4 認定看護師や専門看護師等の資格取得の促進」「5 コメディカルに対する専門研修の実施」：医療従事者の育成が重要であるとの観点から、各種セミナー・研修の参加を支援した。特に、認定看護師については、平成27年度には新たに、慢性心不全の認定看護師、緩和ケアの認定看護師が誕生している。

「9 医療安全対策の充実」：最重要課題として取り組んでおり、平成27年度のインシデント・アクシデント報告件数は、昨年度と比べてほぼ横ばい。報告件数は、病床数の6倍程度が適正という指標があり、当センターは年間3,600件が適正量と考えられるため、今後も、インシデント報告を促す必要があると考えている。

「10 院内感染防止対策の確立」：新生児センター、病院全体のMRSAの新規検出件数は、平成26年度に比べ大幅に減少した。これは、感染症の専門医による抗菌薬の適正指導や、ICT（感染対策チーム）による手指衛生の回数・タイミングの指導等の取組回数が上昇したことによるものと考えている。また、院内研修会等を通じて、職員に感染対策の重要性を浸透できた。

##### 【多治見 原田理事長】

##### 項目番号01

「2 医師、看護師、コメディカル等の医療従事者の確保」：医療の質を高めるため、積極的に確保できたが、一方で、人件費の増加との兼ね合いが難しい。

「3 大学等関係機関との連携や教育研修の充実による優れた医師の養成」：卒後臨床研修評価機構による施設調査を平成28年2月に受審、3月に認定をもらった。

「7 専門性を発揮したチーム医療の推進」：精神科常勤医師は5名おり、精神リエゾンチームの

活動を昨年開始した。今年度4月から精神リエゾンチーム加算をとっている。全国115病院の中の一つとなった。

「9 医療安全対策の充実」：インシデント件数は前年よりも増えており、頑張って報告してもらっている。

#### 項目番号02

「6 患者や周辺住民からの病院運営に関する意見の反映」：満足度調査では、入院・外来ともに全国QIプロジェクト参加病院の平均値よりも良好な数値となっている。

#### 項目番号03

「1 患者動向や医療需要の診療体制の整備・充実」：以前から医療連携に力を入れており、昨年度に比べ、連携予約状況数、強度変調放射線治療患者数ともに増えており、地域医療に貢献できている。

#### 【下呂 山森理事長】

(鈴木院長の紹介。平成28年度から就任。)

#### 項目番号01

「1 高度医療機器の計画的な更新・整備」：昨年度不採択であったものについて、平成28年度補助事業に回している。

「2 医師、看護師、コメディカル等の医療従事者の確保」：医師の確保が課題。未だに引き上げがあり、充足されない状況。一方で、医師募集エージェント登録を通じて、常勤麻酔科医を確保できた。看護師の負担軽減については、WLBの取組を実施し、全国看護協会からも表彰された。

「4 認定看護師等看護の専門性を高める資格取得の促進」：スタッフが少なく、病院規模も小さいため、同じ分野に二人というわけにはいかず、認定看護師は多くはない。当院の認定看護師は、地域で活躍することを前提としており、褥瘡対策、感染対策等、下呂市中の介護施設等を回っている。

「9 医療安全対策の充実」：インシデント報告は、財産という考え方をしており、良いことに気付いた者に対して表彰を行っている。報告件数は気にしていない。表彰した者は、再び良いアイデアを出してくる傾向にある。全室個室になって2年。患者間の感染がなくなったため、12ヶ月の半分は、MRSA0件で、良い結果が出せた。

#### 項目番号02

「3 医療に関する相談体制の充実」：ピンクリボンキャンペーンを継続実施。浸透してきている。

### 1ブロック 質疑応答

【富田委員】医師の派遣（2頁）がH26、27と減った理由は。受け入れ側の充実等、特殊要因があったのか。

【県総 滝谷理事長】派遣していた病院の医師が充足したため。

【富田委員】 インシデント・アクシデント報告について、医師からの報告割合はどれくらいか。

【県総 滝谷理事長】 どの病院も、医師からの報告件数は少ないと思う。以前より10倍多くなったが、とはいえ月1~2件が10~20件になった程度。研修医からも積極的に出すようにしてもらい、増えつつある。

【富田委員】 住民の意見について、意見交流結果を病院運営に反映したとあるが、具体的にはどのように地域の代表者と意見交流を行ったのか。

【県総 滝谷理事長】 運営協議会を年2回開催し、自治会等からの出席者にご意見をいただいている。

【富田委員】 精神リエゾンチームの実績は。加算が採れる程度であれば20件くらいか。

【多治見 原田理事長】 加算が採れる程度の件数。

【富田委員】 クリニカルパスの表(3頁)の種類と件数が分かりにくい、延べ症例数ということか。

【多治見 原田理事長】 そのとおり。

【富田委員】 県総は、手術件数が増えているが、オペの待ち時間はどれくらいか。

【県総 滝谷理事長】 一番長いのは、ダ・ヴィンチの手術で3か月待ち。前立腺がんは、一時、半年待ちの状況もあったが、今は約3か月待ち。その他手術は大体1か月以内。

【湊口委員長】 下呂の診療依頼件数が増えた理由は。

【下呂 山森理事長】 常勤医減に伴い、診療依頼し来ていただく回数が増えた。麻酔科医は、常勤医が確保できたことにより0件。

## 2 ブロック 法人説明 (各法人から実績を説明)

【県総 滝谷理事長】

項目番号04

「1 近隣の医療機関との役割分担の明確化と連携強化による紹介率・逆紹介率の向上」: 紹介率・逆紹介率ともに目標値を達成。

「2 地域連携パスの作成への参加協力及び普及推進」: 平成27年度は乳がん、肺がん等増えた。多くの項目について地域連携パスの運用が増えており、地域医療の役割を十分に果たしている。

項目番号05

「1 救命救急センター」: 救急患者を断らないことをモットーに、地域の救急医療に取り組んだ。救急車受け入れ件数増加。高齢化に伴い、交通手段がない等を理由に救急車の利用が増えるものと認識している。

「2 心臓血管センター」: ハイブリッド手術の他、循環器内科系の高度先進医療、心臓血管外科系の治療も年々増加傾向にある。

「3 母とこども医療センター」: 平成27年度から拡張工事につき、母体搬送・受入れ件数は減少傾向にあった。工事が完了すれば、感染対策も充実し、受入れ件数は増える見込み。

「4 がん医療センター」: 外来、入院ともに化学療法は増えている。外科的治療（手術）は横ばい。ただし、前立腺がんや腎がん等の手術に適用するダ・ヴィンチによるロボット支援手術は、増加している。重症心身障がい児病棟（すこやか棟）に化学療法室を新築移転し、14床から20床に増床した。ほっとサロン利用人数は着実に増えてきている。

「6 小児医療センター」: PICU（小児集中治療室）を4床から6床に増床した結果、入院患者数が倍近く増えた。平成28年3月には、重症心身障がい児病棟（すこやか棟）の運用を開始し、長期入所等を行っている。

#### 【多治見 原田理事長】

##### 項目番号04

「1 近隣の医療機関との役割分担の明確化と連携強化」: 多治見シャトルを実施。多治見シャトルとは、患者を逆紹介し、半年或いは一年ごとに当院での定期検査が必要な患者に対し、時期になると開業医へ連絡がいくシステム。順調に患者も増え、紹介率・逆紹介率ともに安定した数字を確保できている。

「3 救急医療コミュニティシステム等の療養に関する連携強化」: ぎふ清流ネットの利用を10月から開始し、近隣の医療機関の連携が広がっている。

##### 項目番号05

「1 救命救急医療」: 平成27年4月から心臓血管外科医が2人体制になり、また、血管外科の常勤医が一人できたということで、以前よりは循環器系の外科救急体制が整った。また、救急車両の受け入れ台数は、少し増えている。

「2 周産期医療」: 横ばいの数字になっているが、スタッフ、病院のキャパとしても一杯一杯のところを毎年維持している状況であり、地域医療に貢献している。

「3 がん医療センター」: 高精度放射線治療システムの患者数が増えており、質の高い医療を提供できている。

「4 精神科医療・感染症医療」: 地域としての当院の役割を果たしている。

##### 項目番号06

以前からの弱点部門。治験をする医師がなかなかいない。平成27年度は0件。よって自己評価Ⅱとした。

#### 項目番号 0 8

「1 質の高い医療従事者の養成」：先述のとおり、卒後臨床研修医機構の認定を受けている。職員対象の講演会等やコメディカルの研修を実施。コメディカル職員自ら発案、互いに講師となるなど、病院にとって良い傾向にあるため、自己評価IVとしている。

#### 【下呂 山森理事長】

一番力を入れている分野。地域に根差した病院。今後、包括ケア病棟を中心に運用していきたい。

#### 項目番号 0 4

「1 近隣の医療機関との役割分担の明確化と連携強化による紹介率・逆紹介率の向上」：下呂市立金山病院との連携については、ある程度方向性は決めつつある。

「2 地域連携クリニカルパスの整備普及」：あまり使われていない。一方、CKDは診療所や開業医サイドの連携パスで、当院副院長を中心にパスを作っており、非常にうまくいっている。

#### 項目番号 0 5

「1 へき地医療の拠点機能の充実」：地域に特化した医療を目指しているが、医師不足等を理由に全体的には行えていないが、分野を絞って実施。

「4 予防医療の推進」：日曜健診を医師自ら実施するなど、成果が上がってきている。認知症関係では、下呂地域脳機能低下予防研究会を立ち上げ、地域の臨床に関係する精神科医師や脳神経外科医師を集めて毎月1回検討会を開催。

「5 在宅療養支援体制の構築及び推進」：在宅で一番問題となる褥瘡について、褥瘡ゼロを目指し、鈴木院長が下呂市地域の介護施設等を月一回まわっている。

#### 項目番号 0 8

「2 臨床研修医の県内定着化の促進」：当院は定員2名。研修病院としての役割を果たしている。

#### 2ブロック 質疑応答

【石原委員】緩和ケアチーム体制（6頁）について、医師6名を充てているということか。

【県総 滝谷理事長】緩和ケアチームの医師6名のうち、精神科医師1名、その他医師の計2名で対応することが多い。

【富田委員】がん患者数（7頁）について、がん患者外来2万人増の理由。外来化学療法利用者の延べ数か。

【県総 滝谷理事長】後日、報告する。

【富田委員】多治見シャトルについて、定期検診の時期の確認はどのようにしているのか。

【多治見 原田理事長】電子カルテで管理しており、時期が近づくと画面に表示される。

【富田委員】放射線の施行回数（４頁）が減っているのは、IMRTで治療の回数が少なくて済んでいるということか。

【多治見 原田理事長】高度な治療のため、回数が少なくて済むことと、患者ごとに設定に時間がかかり、数がこなせないということ。

【富田委員】褥瘡について、具体的にはどのような取組か。

【下呂 山森理事長】鈴木院長が、対策チームの一人として施設を回り指導している。

【下呂 鈴木院長】以前は院内で研修会を実施していたが、巡回する方が施設職員とも直接話ができるため、効果的である。

【富田委員】急性期病院のマンパワーを地域包括ケアに活かす参考になる。住民に広がれば高齢化社会に対応できる素晴らしい取り組みだと思う。

【石原委員】認知症発見後の対策は。

【下呂 山森理事長】認知症の診断基準の検討段階であり、治療については未だ難しい。

【湊口委員長】心臓血管外科のアブレーション件数大幅に増えているが、WPWは件数が決まっているため、心房細動の症例が占めているということか。

【県総 滝谷理事長】心房細動の症例が占めている。

### 3 ブロック 法人説明（各法人から実績を説明）

【県総 滝谷理事長】

項目番号 10

「1 地域医療水準の向上」：母とこどもセンターの医師が十分でないことから、夜間・休日診療に開業医に協力いただいている。また、小児夜間救急センターでは、各務原市医師会所属医師9名に交代で共同診療を行っていただいている。大人の一般内科の診療に関しても、4名の開業医に、それぞれ月1回、特に、救命センターの救急医療で共同診療をお願いしている。

岐阜市の輪番制では、小児に関しては年間260日、内科外科系は、75日担当している。輪番制で、患者を多く診ることができるかという点必ずしもそうではなく、特に内科・外科系に関しては、輪番制の意味はないように思える。開放型病床の利用状況については、共同指導は月に7.2人の医師がみえており、年々減少している。平成26年度までは100床あったが利用率40%と低迷していたため、病床数600に対し標準的な開放型病床数として20床に大幅に減少させたため、利用率は上昇している。問題は、共同診療していただく方が年々減少していること。開業医も当センターの主治医も忙しいため時間調整が合わず、また、登録医は多いものの、実際足を運ぶことができない状況であり、今後も取り組んでいかなければならない。

「2 医師不足地域の医療機関やへき地医療機関への診療支援」：下呂温泉病院、高山赤十字病院、久美愛厚生病院、金山病院、郡上市民病院等に主に医師を派遣。

「3 へき地対策の支援」：へき地医療支援機構については、特に、自治医大の医師がへき地医療に対する貢献をしている。

#### 項目番号15

「1 診療継続計画の作成及び訓練等による体制の整備」：昨年度、滅菌装置の更新に伴い、電気、ガス双方利用できる滅菌装置を購入。

「2 診療情報のバックアップシステムの構築」：電算室のある管理棟は耐震構造であるため、バックアップの方法として、免震構造の本館に電算室を新設し、電算室を二か所に分散した。また、下呂温泉病院へのバックアップも実施した。

#### 項目番号17

「1 医療障がい児入所施設の運営」：平成28年3月、重症心身障がい児施設すこやかを開設した。濃厚な医療的ケアが必要な重症心身障がい児、具体的には、人工呼吸器を必要とする特に身体障がい児のことで、長期入所を3月から開始している。また、短期入所（レスパイトケア）の受け入れ開始の準備を行った。

#### 【多治見 原田理事長】

#### 項目番号10

「1 地域医療水準の向上」：東濃全域の医師会長等をメンバーとした地域医療連携推進協議会を年4回開催。

「2 医師不足地域の医療機関やへき地医療機関への診療支援」：国民健康保険上矢作病院は常勤医2名。毎週1日、当直業務を含め1名派遣。それとは別に、初期研修医の地域医療研修とういうことで派遣している。中津川市民病院は、脳神経外科常勤医1名ということで、手術日に毎週医師を派遣した。9月から、精神科医1名を毎週派遣し、通院患者を他院へ紹介する等、12月末精神科閉鎖に向けた支援を行った。

#### 項目番号12

「1 公開講座、医療相談会等の開催」：健康づくり講座では、当院の医師や薬剤師等が公民館等へ出向き、地域住民との接触を図った。

#### 項目番号13

「2 災害拠点病院としての機能強化及び指導的役割の推進」：経済産業省からの補助金で、岐阜県で初となる石油ガス災害バルブを設置した。タンクにはガス7日分貯蔵できる。

#### 項目番号14

「2 大規模災害発生時のDMATの派遣」：DPATの体制を構築した。平成28年4月に熊本へ派遣できたことから、準備しておいて良かった。



項目番号 16

「3 感染症指定医療機関としての役割の発揮」：感染症指定医療機関ということで、新型インフルエンザ等の体制を整え、東濃地区において役割を果たしている。

【下呂 山森理事長】

項目番号 10

「1 地域医療水準の向上」：平成26、27年度は、派遣できる医師がいなくなったため、応援してもらう方が増えてしまっている。高度医療機器の共同使用は、毎年行っている。地域の医師に支援いただきながら、病院を維持し、地域を守っている。

### 3ブロック 質疑応答

【富田委員】DPATの研修はどうなっているのか。DMATは研修の数が限られ、希望しても参加できない。厚労省の講習に参加しているか。

【多治見 原田理事長】そのうえで、チーム編成していると聞いている。精神科医師の需要もあることからどこでもできることではない。

【富田委員】県総合医療センターのバックアップシステムは下呂温泉病院のほか、他府県にはないのか。

【県総 滝谷理事長】業者のデータセンターも検討したが、他府県にはない。下呂温泉病院の辺りは、県内で一番地震の確立が低い（と言われている）。データの取り出しには1～2日かかる。電子カルテの文字データはノートパソコン10台に入れており、直ぐに見ることができる。災害時の初期には、持ち運びもできることから、そういったものを使う。

【湊口委員長】他の医療機関への人的支援（1頁）で、高山赤十字病院への診療支援が、平成26、27年度に激減している理由は。循環器医師のことか。

【県総 滝谷理事長】高山赤十字病院は、外科の常勤医の確保等により体制が整ったため（平成26年度から支援件数が減っている）。引き続き派遣しているのは小児科医。揖斐厚生病院は、平成26年度に循環器医師が充足した（ため、平成27年度から減っている。）

【湊口委員長】高山赤十字病院は、県北にあり、周囲30万人の患者がいるといわれているため、高山をぜひとも守っていただきたい。県総理事長には、協力をお願いしたい。

### 4ブロック 法人説明（各法人から実績を説明）

【県総 滝谷理事長】

項目番号 23

外部接続している業務用パソコンのセキュリティ強化や、私用USBは使用できない設定などの対策強化を行った。職員には、パスワード付きのUSBを貸与している。

#### 項目番号24

ベンチマークといわれるような情報を得ることで、当院の診療材料の値段を他院と比較し、価格交渉にも反映させる努力を昨年度も取り組んだ。保険償還価格のない、つまり保険ではみてもらえない持ち出し分2,900品目について、年間3,400万円削減できた。保険償還価格のある品目については、平成28年1月にベンチマークを開始し、3か月間だけで2,300万円のコスト削減につながった。

#### 項目番号25

「2 未収金の発生防止対策等」：悪意のない方、特に救急搬送患者や公の援助を得られる患者については、医療相談員の介入を早期に実施し、未収金の発生防止に努めた。回収困難な未収金については、弁護士法人に回収業務を委託し、法的強制力はないものの、納入依頼文書等で30%程度の回収効果をあげている。27年度に発生した未収金の額は、医業収益の増加により若干増えているが、発生件数や、未収金回収努力により、未収金全体額としては減少している。全医業収入の約0.1%が未収金。0.1%の未収金は、公的病院では比較的低い方とされている。未収金合計7,500万は、現在の合計を示している。難しいことだが、0を目指して努力している。

「3 総合入院体制加算として退院時の開業医への紹介率等の向上」：退院時加算は49.9%で、40%をクリアしているため、評価IVとした。

#### 項目番号26

ジェネリック医薬品使用率20.86は、全薬品に対する割合。厚労省の基準使用率80%は、全後発医薬品に対する割合。金額ベースは、経営上有用な数値。品目ベースでは、26年度よりも倍近く上がっており、金額ベースでもジェネリックの使用割合が増えている。今後も、ジェネリックの使用を進めていきたい。

#### 【多治見 原田理事長】

#### 項目番号17

「4 経営効率の高い業務執行体制の確立」：職員からアイデアを募集する取り組みを始めた。

#### 項目番号19

人事評価システムの構築については、事務局長が熱心に進めている。期首面談の時期を早める等、実際に実施している。

#### 項目番号20

独立行政法人化後の課題の一つが、プロパー職員の資質向上。各種研修を通じて、職員の意識や知識の向上が感じられるため、評価IVとした。引き続き取り組みたい。

#### 項目番号 2 4

「1 効果的な病床管理、医療機器の効率的な活用、D P Cの推進」：係数によって診療報酬が決まる。H 2 7年度は前年度よりも上がったものの、病床管理状況については伸び悩んでいる。

「2 未収金の発生防止対策等」：未収金は、以前から最大限努力している。

#### 項目番号 2 5

材料費削減等に努めているが、医療の高度化等により薬品費に診療材料費が伸びている。医療の質を落とさないように、薬品費や診療材料費を抑えることが大切だと思っている。後発医薬品の使用率 8 2 . 4 4 は、県総合医療センターと異なり、後発医薬品がある薬の中での割合。数量ベースで、8 0 %以上となっており、目標を達成した。

#### 【下呂 山森理事長】

#### 項目番号 1 6

「3 アウトソーシング導入による合理化」：外部に委託したすべての委託事業について、アウトソーシングと直営どちらが良いのか見直しを行った。

「4 経営効率の高い業務執行体制の充実」：職員組合と話し合い、不平等になってきた医業職の調整数を平成 2 7年度限りで廃止した。

#### 項目番号 1 7

「2 効果的な体制による医療の提供」：外来受付業務及び健診センター受付業務を直営化し、受付業務以外の仕事も柔軟に対応できる体制を整え、効率化を図った。

#### 項目番号 2 3

「1 効率的な病床管理、医療機器の効果的な活用」：地域包括ケア病棟を 2 病棟に増やし、入院収益の向上を図った。地域包括ケア病棟は、6 0 日まで入院できるため、入院率も上がった。

「2 未収金の発生防止対策等」：毎年、未収金 5 0 0 万円以下になるよう努力している。

#### 項目番号 2 4

一昨年から、薬の期限切れ・破損等を毎月報告することとし、各部門で適正な在庫管理に取り組んでいる。材料比率は、薬品費、診療材料費、材料全体ともに減少している。

### 4 ブロック 質疑応答

【富田委員】U S Bセキュリティ（7 頁）について、対象は医師のみか。医師が異動する際の管理は。

【県総 滝谷理事長】全員を対象としているが、コメディカル等は複数人でU S Bを共有している。医師が異動する場合は、U S Bを回収する。

【富田委員】診療材料費比率について。多治見病院 1 1 %、県総合医療センターは 1 4 ~ 1 5 %で、大体 1 5 %程度が多いと思うが、努力の結果なのでは。

【多治見 原田理事長】努力もあると思うが、診療内容が県総合医療センターと異なり、神経関係の患者が少なめであることがかなり関係している。

【芝田委員】事務部門の専門性の向上（５頁）について、折角専門性を高めても離職が多いと勿体ないと思うが、事務職員の定着状況はどうか。

【多治見 原田理事長】１名、３年程前に退職したがいたが、それ以外はいないため、定着してきたと思われる。

## 5 ブロック 法人説明（各法人から実績を説明）

【県総 森嶋事務局長】

項目番号 27

経常収支比率は、若干目標に達しなかったが、人件費率は、目標を達成した。

決算：外来収益では患者数の増、入院収益では在日数の減、手術件数の増加等による診療単価の増が主な理由。資本収入は、重症心身障がい児のための有床病棟に加え、すこやか棟の建設に伴う増加があり、25億円の長期借入を行った。支出は、医業収益の増加に伴い、医業費用も増えている。

資本支出：すこやか棟の建設に伴う建設費が多額になったことが主な理由。

収支計画に対する実績：純損失の主な要因は、すこやか棟建設に伴う消費税関係。

項目番号 28

すこやか棟内に病児保育室及び病後児保育室を設置。更には、業務効率化のため、院内保育所業務を委託することとし、プロポーザル方式の入札を行った。ハラスメント防止に関するポスターの掲示により周知徹底を図った。

項目番号 30

すこやか棟の建設について、計画どおり27年度に完成させた。経年劣化する古い医療機器の更新を行った。

項目番頭 31

計画どおり償還している。

【多治見 原田理事長】

項目番号 26

医療の質を高めるため職員の増加を図ったことや制度の変更の結果、職員給与費50%を超えることになった。

決算：収入が伸びず、支出が伸びた。特に人件費。

項目番号 27

年次休暇、夏季休暇等の取得率が上がってきている。病院をあげて努力している。  
また、院内保育施設の使用状況については、前年度に比べかなり増えており、評価Ⅳとした。

#### 項目番号 29

新中央診療棟の整備については、基本構想まで進めることができたため、評価Ⅳとしている。

#### 項目番号 30

県に対する債務の償還は確実にを行っている。

#### 【下呂 丹羽事務局長】

#### 項目番号 25

経常収支比率は、年度計画を 2.9 ポイント下回った。職員給与費対医業収益比率は、年度計画を 9.1 ポイント下回った。引き続き、経常収支比率 100%以上、職員給与費対医業収益比率 60%以下を目指して経営努力していく。

収支計画に対する実績：前年度より 3.95 億の赤字改善。新病院の整備に係る減価償却費を除いた収支では約 4000 万の赤字。

営業収益は、前年度並み。入院収益は、入院患者数は増加したものの、手術の減少に伴う入院単価の低下により、ほぼ前年度並みとなった。外来収益は、患者数が増加し収入額 3,200 万円増えたが、運営費負担金 5 千万円の減少等により、営業収益は、前年度並みとなった。臨時利益として、旧下呂病院用地の売却収益を計上。

費用については、材料費や経費の減少により、3 億円減少した。旧病院の解体に係る経費は、臨時損失として計上。

### 5 ブロック 質疑応答

【下呂 山森理事長】（補足すると）病床数を減らしたため、収入を増やせず、更に県からの運営費負担金が減るため、厳しい状況。従来は、病床数を増やし、その増益で借金の返済をしていた。

【湊口委員長】県民のことを思うと、県として考えていただきたい。評価委員会の場で発言された窮状を踏まえると、陳情してはどうか。

#### [報告事項]

地方独立行政法人岐阜県総合医療センター・岐阜県立多治見病院・岐阜県立下呂温泉病院の平成 28 年度年度計画について

### 全体 質疑応答

【金山専門委員】下呂の理事長の発言もあったが、福祉政策について、行政の助成が充実すると大変ありがたい。住民としては、できるだけ地域でサポートできる体制を作ろうと頑張っており、こういったものを利用しながら県の施策で恩恵を受けられると良い。

以上（終了時刻 16:45）